

◆【海員随想】B I S K R A号航海記（14）① 元機関長 新木繁雄

5 月 9 日（水）ヒホン出港

朝 7 時になったのに全然動く気配がない。乗組員はもう十分出港 S / B に慣れているから、私がエンジンルームへ行く必要はない。ブリッジで景色を眺めることにした。

昨晚仕込んでおいたタケノコ飯がちょうど炊き上がった頃、武村君が私の部屋へ来た。機関室を一回りして、出港 S / B 状態を見てきたという。仕事がたまっているから、出港したら少し忙しくなる。今のうちに朝飯を食べておこう。塩を適度にきかせたタケノコ飯はなかなかうまい。大根のハリハリ漬けが、熱い飯にまたうまい。

8 時 30 分出港。パイロットが下船した時点でエンジンを止め、開放した滑動部を触って、発熱の有無をチェックした。すべて O K。その後 30 分間主機回転を 90 に保ち、120 回転に上げた。ここでもう一度滑動部をチェック「異常なし」を確認して、F U L L 回転の 160 r p m まで上げた。

2 号燃料油清浄機に、運転不能が発生している。作動水分配盤の汚れた。ヨーロッパの水には多量のシリカ（珪酸）が含まれていて、作動水分配盤の穴を詰まらせる。そのほかにも修理箇所が出てきた。当分はそれらで忙しくなりそうだ。

船の後をたくさんのカモメが追っかけてくる。残飯を捨てるのを待っているようだ。

5 月 10 日（木）大西洋航海

夜中に大きな音が連続して聞こえ、目が覚めた。モーターのうなり声のようで、突然止まったりする。機関室を一回りしてきたが、発生源が分からないまま消えてしまった。風向きによって、吸気ファンが発する音かもしれないが、発生源が分からないのが気にかかる。大きな事故が起こりそうないやな予感がする。

プロペラ軸の中間軸受けの L O が白く乳化している。水が混ざっている証拠だ。ワイパーが機関室掃除で水をまき、中間軸受けへ入れたらしい。運転中は取り換えできないから、次の港で取り換えよう。

雑用水の残りが少なくなった。造水機運転を開始。5 日ほど造水すれば、タンクがいっぱいになるだろう。バスタブがなく、シャワーしか使わないこの船の清水消費量はきわめて少ない。

久しぶりにインスタント豆腐を作った。「夕食はビフテキだ」と聞いたので、その肉を 2 人分もらってきて、ジャガイモ、卵、さや豆、コンニャクとともに煮込み、おでんを作った。豆腐は冷奴。日本酒がなくなったから、ブランデーで我慢するしかない。

ヒホン停泊中は日本船で日本食をごちそうになり、楽しいことがあった半面、忙しくもあった。船底に亀裂が入るなど、今後の船員生活でもおそらく経験することはないだろう。貴重な体験だった。

「海員だより」